

令和2年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、法人ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

（1）期日

- ① 令和2年6月21日（日）日帰り
- ② 令和2年10月3日（土）～4日（日）1泊2日

（2）参加者

- ① 令和2年6月21日（日）日帰り
 - 募集対象・人数
高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 30人
 - 参加人数
27人（高校生13人、大学生13人、社会人1人）
- ② 令和2年10月3日（土）～4日（日）1泊2日
 - 募集対象・人数
高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 30人
 - 参加人数
5人（大学生5人）

（3）講師等

- ① 令和2年6月21日（日）
 - 講義1「ボランティア活動の意義」
講師：乗本 雅彦（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）
 - 説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」
報告：法人ボランティア2人（国立吉備青少年自然の家）
 - 講義・演習1「ボランティア活動の技術」
講師：乗本 雅彦（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）
 - 講義・演習2「安全管理」
講師：井上 桂 氏（下関市立深坂自然の森 森の家下関 所長）
 - 講義2「青少年教育における体験活動」
講師：高藤 佳明（国立吉備青少年自然の家 所長）
 - 講義3「青少年教育施設の現状と運営」
講師：高藤 佳明（国立吉備青少年自然の家 所長）
 - 説明2「青少年教育施設におけるボランティア活動」
説明：延原 正章（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

② 令和2年10月3日(土)～4日(日) 1泊2日

1日目

講義1「ボランティア活動の意義」

講師：太田 直宏 氏

(公益財団法人YMCAせとうち 代表理事・総主事)

説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」

報告：法人ボランティア3人 (国立吉備青少年自然の家)

講義・演習1「ボランティア活動の技術」

講師：乗本 雅彦 (国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職)

2日目

講義・演習2「安全管理」

講師：井上 桂 氏 (下関市立深坂自然の森 森の家下関 所長)

講義2「青少年教育における体験活動」

講師：土田 豊 氏 (中国短期大学 保育学科 准教授)

講義3「青少年教育施設の現状と運営」

講師：高藤 佳明 (国立吉備青少年自然の家 所長)

説明2「青少年教育施設におけるボランティア活動」

説明：延原 正章 (国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職)

(4) 企画・運営のポイント

- ① 開催については、新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえ、6月に日帰りで実施した。日帰りによる不足時間の補填として、事前課題を参加者に出すようにした。また、6月に参加したくてもできなかった者もいると考え、10月に宿泊を伴う2回目を実施した。
- ② 実施に際しては、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考え、1人1台の机にしたり、参加者同士の間隔や身体接触に留意したりしながら講義・演習を行うようにした。
- ③ 広報については、6月は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、大学を訪れての広報はできなかった。チラシの送付と窓口での連絡を主に行った。10月は広報用の動画を作成し、ノートルダム清心女子大学と中国学園大学の許可を得てオリエンテーションや学部HP等で紹介をしてもらった。
- ④ 各講義では、様々な場面で青少年の体験活動を実践・支援されている講師の方々を招聘して、実践に基づいた講話を聴けるようにした。
- ⑤ ボランティア活動で必要な技術や知識を習得するために、講義だけでなく演習も取り入れ、体験を通して技能の習得を図った。

3. 活動の内容等

① 令和2年6月21日（日）

(1) 日程

6月21日（日）	
10:00	開会
10:15	講義1「ボランティア活動の意義」 説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」 先輩ボランティアから活動状況の報告
11:00	講義・演習1「ボランティア活動の技術」 薪割り+かまどで着火（30分） 樹木ビンゴ（30分）
12:00	昼食
13:00	講義・演習2「安全管理」
15:00	講義2「青少年教育における体験活動」 講義3「青少年教育施設の現状と運営」 吉備のボランティア制度を含む
15:45	説明2「法人ボランティア登録手続きについて」
16:00	閉会

(2) 活動の状況



【講義1「ボランティア活動の意義」】



【説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習2「安全管理」】



【講義・演習2「安全管理」】

② 令和2年10月3日（土）～4日（日）1泊2日

(1) 日程

10月3日（土）		10月4日（日）	
9:30	受付	6:45	起床・洗面
10:00	開講式	7:15	清掃
10:30	講義1 「ボランティア活動の意義」	8:00	朝食
12:00	昼食	9:00	講義・演習2 「自然体験活動の安全管理」
13:00	説明1 「青少年教育施設における ボランティア活動」	12:00	昼食
14:00	講義2「青少年教育施設の 現状と運営」	13:00	講義3「青少年教育における 体験活動」
15:00	講義・演習1 「ボランティア活動の技術」	14:45	説明2 「青少年教育施設における ボランティア活動」
17:30	夕食	15:45	閉講式
19:00	入浴・休憩		
22:00	就寝		

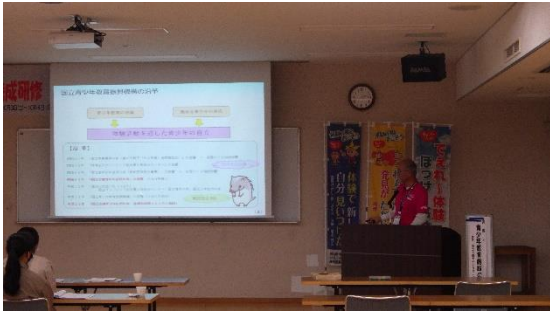
(2) 活動の状況



【講義1「ボランティア活動の意義」】



【説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【講義2「青少年教育施設の現状と運営」】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習2「安全管理」】



【講義3「青少年教育における体験活動」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

- ① 日帰り 満足 85% やや満足 15%
- ② 1泊2日 満足 60% やや満足 40%

(2) 参加者の声

- ① ボランティアとして参加するための心構えを理解することができました。
- ② 体験談を聞いたことで、ボランティアに対する興味がわき、参加してみたいと思った。
- ③ 普段の安全意識から、緊急時の対応など役立つ知識を多く得ることができた。
- ④ 自然体験を通して、日本の子供の自尊感情をしっかりと高めていきたいと思った。
- ⑤ ボランティアを通して、学校ではできない経験をしていきたい。
- ⑥ 今回はコロナで日帰りだったけど、宿泊をして参加者同士でも交流をしたかった。
- ⑦ 事業自体はとても充実したプログラムだと感じた。スタッフやボランティアの方々とても親切で、丁寧に対応してくださり、満足できる充実した研修だった。

(3) 成果

- ① 本年度は新型コロナウイルスの影響により、参加者が集まるか懸念があったが、広報活動や日程変更などの対応によって、2回の合計で募集人数を超える参加者を得ることができた。
- ② 継続ボランティアからの発表や交流もあり、法人ボランティアに新規登録した参加者が、今後の事業等に参加しやすくなった。
- ③ 各講義では、昨今の現状を踏まえた内容を盛り込んでおり、どの参加者も興味深く真剣に受講していた。

(4) 今後の課題

- ① 今後も新型コロナウイルスの影響で、大学を訪れての広報活動が難しい場合が考えられる。今回作成した紹介動画を活用するなど、広報の形を改めて考えていく必要がある。
- ② 日帰りへ参加した参加者の声にも、宿泊を希望する声があった。参加者が安心して宿泊しながら受講できるような運営態勢を整えていきたい。

担当：企画指導専門職 延原 正章